

2023 年 4 月

第 151 号

ぱれっと



㈱北日本ベストサポート

Tel. 018-883-1888

「侍ジャパン」14 年ぶり 3 度目の世界制覇

3 月 9 日に開幕した第 5 回野球の国・地域別対抗戦「ワールド・ベースボール・クラシック」(WBC)が 3 月 22 日、米国フロリダのマイアミで日本チームと米国チームが決勝戦を行い日本が 3 対 2 で競り勝ち 3 度目の優勝の栄誉に輝いた。14 年ぶりの快挙である。

今回の決勝戦は今永投手を先発させそれぞれ個性豊かな 7 人の絶妙な投手リレーで猛打の米国の連打を許さなかった。2 点に抑えたのは投手陣の踏ん張り、投手起用の妙につきるのではないと思う。栗山監督の采配が冴え渡ったとも見える。予選リーグで不振を極めた村上選手に対しても 4 番から 5 番打者へ打順を変えたものの、最後まで信頼して起用し続けた監督の手腕・読みの確かさには敬服する。準決勝のメキシコ戦では村上選手が最終回に見事に期待に応えフェンス直撃の二塁打を打ち逆転サヨナラ勝ちに導いた。決勝の米国戦でも本塁打を放ち日本の反撃の土台を作った。

日本の選手たちはチームワーク良く全員がよく頑張ったと思う。2 月 17 日には宮崎キャンプ以来選手たちの食事会を開いたり、選手同士の人間関係の強化にも取り組んできた。米国育ちの日系人プレーヤー、ヌートバー選手も日本チームに溶け込んで攻守で素晴らしい活躍をした。彼はまたチームのムードメーカーでもあった。とにかくチームが一丸となって優勝を目指して取り組んだ結果が勝利をもたらしたと言える。

チームのために大谷選手が対メキシコ戦で意表を突くセーフティーバントを行ったことも、チーム勝利のために少しでも貢献しようとする気持ちの表れであり、決勝戦前に大谷選手が語った「野球をやっているれば誰も聞いたことのある選手がいる。でも憧れてしまっただけでは越えられない。僕らはトップになるために来た。今日一日だけは彼らへの憧れを捨てて、勝つことだけを考えましょう。」という言葉にずしりと重いものと決意を感じる。

そして決勝の最終回、エンゼルスと同僚で強打者であるトラウト選手に全力投球し空振りの三振に仕留め、日本が勝利した。

大会最優秀選手(MVP)に選ばれた大谷選手は、ベストナインとして投打 2 部門でも選出され(DH で打率 4 割 3 分 5 厘、1 本塁打、8 打点。投手で 2 勝 1 セーブ、防御率 1.86)、外野手では吉田選手も選出された。

大谷選手の二刀流は栗山監督が日本ハム時代に提唱し指導してきたものであり、監督と大谷選手はそうした師弟関係にもある。こうした大一番をとともに過ごすことができたのは監督にとっても最高の舞台だったと思う。栗山監督は選手たちに 10 度宙に舞う胴上げをされ全員で喜びを分かち合ったが「監督はなにもしていない。コーチ・スタッフ・選手が命懸けでやってくれ、ただただ嬉しく思う。」と心情を語り、全員に感謝と労いの言葉を述べた。

大自然の恵み

木々の萌え出る春の姿・・・・・・これはほかならぬ木々の命の姿であり、そこにあるものは太陽や水、空気などの大自然との調和の姿である。

この命は、元をただせば、大自然の恵みである。植物も、動物も、さらには人間も、すべてこれ大自然によって創られたものである。

それは広義の大自然の一部で、本来大自然と対立すべきものではなく、むしろ大きな知恵と信頼とにより、相ともに融(と)けあう大調和の中にあるべきものである。

神経質の文化ではなく、そうした大自然と融けあう文化こそ望ましい文化である。

道を開くもの

若人よ、諸君が覚悟をして燃える時、諸君には自らもわからぬような無限の可能性が展開されるのだ。

この可能性の展開は、いわゆる頭のよしあしの問題ではなく、実に諸君の火と燃える意志と何ものにも負けない不屈の努力とにあるのである。情熱、実行、努力・・・・・・これこそが諸君を生かし、諸君を伸ばす力である。

諸君はその目的に向かって全情熱を傾けることだ。

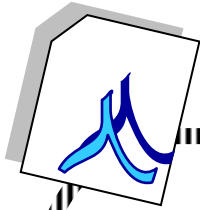
不屈の意志のあるところ、道は開ける。

自己との闘い

だれにでも、生まれながら、やればできるという可能性が与えられてはおるのだが、この可能性をひき出して能力にまで伸ばすには、それに必要なひきがねがある。

それは努力である。

この努力は、わがままな自己との闘いになるが、この自己との闘いに克つことなくしては、とうてい人の名にふさわしい尊い人たることはできないであろう。 さあ、がんばろう。



グリエルモ・マルコーニ 無線機で知られるイタリアの発明家

- | | |
|------------------|--|
| 1874 年 4 月 25 日 | ジュゼッペ・マルコーニとアニー・ジェームソンの次男としてイタリアのボローニャに生まれる。 |
| 1896 年 | 父はボローニャの裕福な地主で、グリエルモは学校にほとんど通わず家庭教師に数学・物理・化学などを学んだ。21 歳で母親とともにロンドンに赴き、パラボラ反射鏡アンテナを試しはじめ郵政庁屋上でデモンストレーションを行った。 |
| 1897 年 5 月 13 日 | マルコーニは世界初の海を超えての無線通信に成功。 |
| 1899 年 11 月 15 日 | イギリス海岸から 66 海里離れた無線局との無線電信に成功。 |
| 1909 年 | ノーベル物理学賞受賞。 |
| 1914 年 | イタリア元老院員議員となった。イギリスではロイヤル・ヴィクトリア勲章を授与。 |
| 1929 年 | 国王ヴィットーリオ・エマヌエーレ 3 世より侯爵に叙爵された。 |
| 1933 年 11 月 16 日 | マルコーニ夫妻は日本郵船の秩父丸で来日。日本政府より日本の無線界発展に寄与したとして勲一等旭日大綬賞を授与された。 |
| 1937 年 7 月 20 日 | ローマで心筋梗塞により死去。享年 63 歳。イタリア国葬。 |



「千に一つの奇跡をつかめ！」

著者 千本 倅生 出版社 サンマーク

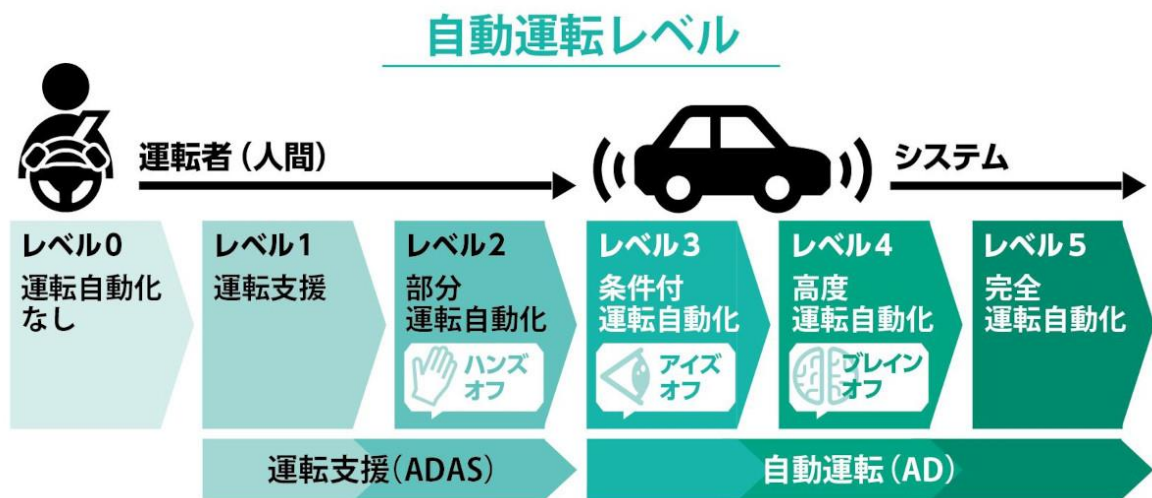
著者は 1942 年奈良県生まれ。京都大学工学部電子工学科卒業。日本電信電話公社(現 NTT)入社。入社後フロリダ大学修士・博士の学位習得。

日本の電話事業が国営で競争相手がいない状態で通話料金も高い。これをなんとか改革したいと稲盛和夫氏に相談を持ちかけ「第二電電」(現 KDDI)を立ち上げ電話事業に風穴をあけた。

本書は自分が勤務している会社を退職しそのライバル会社を軌道に乗せるためのエピソード・苦勞の連続の物語。世のため人のため成功に導いた。

2023 年施行道路交通法(道交法)改定

2023 年 4 月 1 日より改正道路交通法が施行され、いよいよ「レベル4」の自動運転が解禁されます。これにより遠隔監視などを条件に、自動運転車を活用した公道での巡回サービスが可能となります。今回の改定では主に過疎地域で特定のルートを無人で走るバスやタクシーでのレベル 4 の自動運転が想定されていますが、今後は高速道路での自家用車・トラックなどにも拡大される予定です。



その他にも、電動キックボード等に特定小型区分が新設(免許不要で 16 歳以上:2023 年 7 月 1 日施行)や自動配送ロボット等の公道利用が可能になったり、運転免許とマイナンバーカードの統合(希望者は運転免許証の情報をマイナンバーカードへ記録して統合することができる:施行は 2025 年 4 月 26 日以内)などがあります。

また、身近なところでは自転車乗車時のヘルメットが現在の「13 歳未満の児童や幼児が乗る際にかぶせるよう保護者らへの努力義務」が 4 月からは「自転車を運転する人全員にかぶるよう努めなければならない」と年齢を問わず努力義務へと変わります。

くらしに関わる情報をアップデートして新年度を迎えましょう！

【編集後記】

今年は例年になく雪も少なく、春の訪れが早いような気がする。
コロナもだいぶ少なくなりマスク着用も個人の判断に委ねられるようになった。
一日も早く通常の日常生活をとり戻したい。一日も早く素顔で話したい。一日も早く平和の声を聞きたい。
まもなく桜の季節がやってくる。
学童たちの思いっきり声を張り上げ駆けずり廻る姿を見たい。